

特別寄稿

COVID-19 に関するハイパフォーマンススポーツ センターの動向 —国立スポーツ科学センターを中心とした取組—

久木留 毅^{*1, *2}

^{*1} 国立スポーツ科学センター、^{*2} 専修大学

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により世界中が大混乱となっている中で、日本政府は緊急事態宣言を出した。このため、オリンピック・パラリンピックアスリートのトレーニングにおける中核拠点のハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）も閉鎖となった。スポーツ科学・医学・情報面からアスリートをサポートする国立スポーツ科学センター（JISS）は、HPSCの一部門である。本稿では、COVID-19下でのJISSの支援活動について新設されたコンディショニング課とHPSCの機能強化ユニット・インテリジェンスグループが行なった情報発信を中心に紹介した。HPSCによる情報発信の強みは、スポーツ科学、スポーツ医学の専門家がフルタイムで揃っていることである。さらに、各国の情報を収集する部門があるため包括的な議論ができ、その上で情報発信ができることがHPSCの最大の強みである。

また、今回のCOVID-19による緊急事態宣言を安全に解除していくためには、各種ガイドラインの作成が必須となっており、それはスポーツ界も同様である。オリンピック・パラリンピックという分野において、HPSCがCOVID-19対策としてのスポーツ活動再開ガイドラインの作成を中心的に行なった。

キーワード：新型コロナウイルス感染症（COVID-19） ハイパフォーマンススポーツセンター コンディショニング課 機能強化ユニット・インテリジェンスグループ

I 緒言

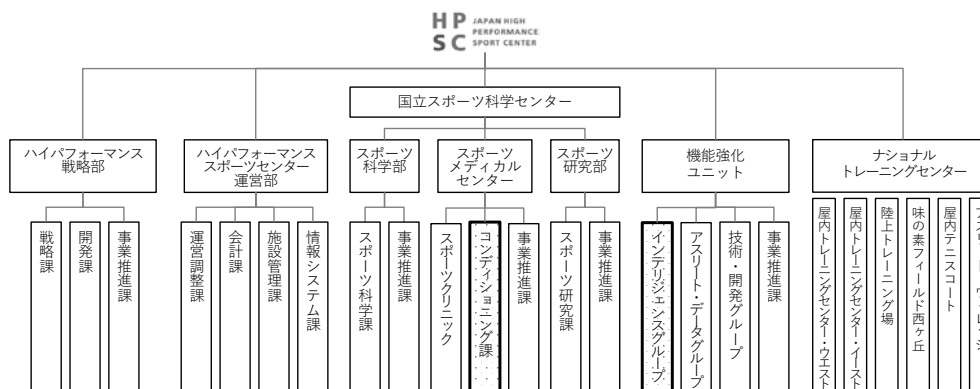
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で猛威をふるい多くの犠牲者を出している。その感染者数は5月30日時点で588万人を超え、死者約36万人と言う今世紀最大の惨事となっている。中でも世界最大の感染国となっているアメリカは、感染者約174万人、死者約10万人であり、続いてブラジル、ロシア、イギリス、スペイン、イタリアが20万人以上の感染者数となっている¹⁾。

これらの大惨事は、2019年12月末に中国湖北省武漢市において原因不明の肺炎の発生に起因していた。2020年1月5日、世界保健機構（WHO）は原因病原体が新種のコロナウイルスである可能性を言及した。さらにWHOは、1月30日に国際的な公衆衛生上の緊急事態を宣言した。しかし、WHOが感染症の世界的な大流行であるパンデミックを宣言したのは、3月11日のことであった。

一方、2020年東京オリンピック・パラリンピックを

控えていたスポーツ界は、大きな影響を受けることとなった。それぞれの国際競技連盟（IF）が主催するオリンピックアジア予選、東京2020テストイベント等のアジアで開催予定であった多くの国際スポーツイベントが開催地変更や中止となり出したのが、1月中旬からであった。さらに、1月下旬には北京冬季オリンピック・パラリンピックのテストイベントも中止となった。2月下旬からはイタリアを中心に国際大会が中止となり、冬季競技の世界選手権等の主要大会も中止となった。3月中旬からは一部のIFが全ての大会や活動を停止し、各国のナショナルトレーニングセンターやオリンピックトレーニングセンターも閉鎖が相次いだ。さらに、各国政府の渡航や競技大会の開催に関する制限が本格化した。3月下旬、国際オリンピック委員会（IOC）は2020年東京大会の延期を検討し、3月24日に東京2020組織委員会と延期決定を共同で声明を発表した。これにより、史上初めてオリンピックは1年間の延期が決定した。

日本は、世界の中で比較的COVID-19による影響が



参考 https://www.jpnport.go.jp/corp/Portals/0/corp/keisen/R020401_organizationchart_division.pdf

図1 HPSCの組織図

少ない国である。感染者は5月30日時点で16,673名、死者887名である¹⁾。ただ、検査数が少ないことや様々な社会インフラの違いにより一概に比較できない部分も多々ある。その中で、日本は4月7日に東京、大阪を中心に7都府県に一ヶ月間の緊急事態宣言が発令された。さらに、16日に対象地域を全国に拡大した。その後、5月7日に緊急事態宣言の適用期間が一部延長され、14日には東京や大阪を除く39県において緊急事態宣言の解除が発表された。さらに25日には、残りの都道府県でも解除が発表された。これにより日本における緊急事態宣言は一旦全面解除となった。

この間、オリンピックやパラリンピックアスリートの中核拠点であるナショナルトレーニングセンター・ウエスト（NTC・ウエスト）、ナショナルトレーニングセンター・イースト（NTC・イースト）、JISSからなるハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）も4月7日より閉鎖となっていたが、5月25日政府の緊急事態宣言解除に伴い関係機関と協議を重ね段階的な再開へと至った。

日本のスポーツ界においても、今回の初めての取り組みを何らかの形で残しておくことは、次回以降の対応策を講じる上でも大きな利点となる可能性が考えられる。

そこで本稿では、今回のCOVID-19による影響下において日本スポーツ振興センター（JSC）が行ってきたHPSCでのアスリートサポートとともに、その中心となったJISSに新設されたコンディショニング課とHPSCの機能強化ユニット・インテリジェンスグループの活動を中心に紹介したい。

II JISSの組織改編とコンディショニング課の設置

2001年に開所されたJISSは、これまで多くのオリンピックやパラリンピック等においてスポーツ科学、医学、情報面でアスリートやチームを支援してきた。その中で国は2016年4月からNTC・ウエスト、JISSさらに2019年に設立されたNTC・イーストをHPSCと位置付けた。また、JISSにおいてはスポーツ科学研究部をスポーツ科学部とスポーツ研究部に再編し、その中で栄養グループ、心理グループ、トレーニング体育館グループ、ハイパフォーマンスジム（HPG）をメディカルセンターに配置転換し、リハビリテーショングループとともに新たにコンディショニング課を設置した（図1）。

JISSは開所当初から支援と研究を両輪に掲げて活動を展開してきた。しかし、時代の変化とともにJISSの支援と研究に求められるものが変わってきたのも事実である。JISSが開所した2001年当時と大きく違うのは、プロフェッショナルスポーツへのスポーツ科学、医学、情報面における支援が一般的となり、JISS以外の介入が起こっている点である。そこで、最も明らかにしていかなければならないのは、JISSでしかできない支援と研究の明確化と仕組みの構築である²⁾。

そのためJISSではスポーツ科学研究部を発展的に解消し、スポーツ科学部、スポーツ研究部、そしてコンディショニング課に大きく改編した。その成果は少しずつ現れている。特に競技研究の位置付けが不明瞭であった。そこで、JISSでは外部アドバイザー（研究と支援／10名）の意見も取り入れ、競技研究をハイパフォーマンススポーツ研究と位置付けた。さらに、ハイパフォーマンススポーツ研究の定義を検討した。その結果「世界一を競い合うレベルのアスリートが発揮する卓越したパフォーマンスに関する研究」をハイパフォーマンス研究とした（図2）。今後は定義に基づ

ハイパフォーマンススポーツ研究 (High Performance Sport Research) の定義 世界一を競い合うレベルのアスリートが発揮する卓越したパフォーマンスに関する研究	
Performance の定義 ① 辞書的定義 ・ 実行、遂行 ・ 能力、腕前 ・ 演奏、演技 ・ 身体を用いた表現 ・ 性能、機能、効率 ・ 業績、成績 ・ 人目を引くための行為 (大辞林、IT用語辞書BINARY) ② スポーツにおける意味 ・ 実行、遂行 ・ 能力、腕前 ・ 演技 ・ 身体を用いた表現 ・ 性能、機能、効率 ・ 業績、成績 ・ 人目を引くための行為	High Performance の定義 ① 辞書的定義、スポーツに依らない意味 ・ 高性能、高機能の (リーダーズ英和辞典、ウィズダム英和辞典) ② スポーツにおける意味 ・ 世界最高峰の舞台において求められる競技力 (勝田, HPSC設置時・暫定的意味, 2016) ・ 非常に高度な・卓越したパフォーマンス * top of topのスポーツで使われる言葉 * 様々なパフォーマンスの総合力が競技結果に反映
High Performance Sport の定義 ・ スポーツの卓越性 (Performance Excellence) を目指すスポーツ活動 (文科省, トップアスリートにおける強化・研究活動拠点の在り方についての調査研究, 2015) ・ 国際競技力における卓越性を達成、追求、またはその潜在力を有するトップアスリートが従事するスポーツ (Bloom et al., 2006) ・ 強靱で持続可能な国際競技力の取組み (Own The Podium, High Performance NZの設置・取組みの主旨) ・ スポーツにおける持続的な卓越性 (Performance Excellence) の追求 (JSC、暫定的意味) ・ 世界一を競い合うスポーツ (久木留、暫定的意味)	

2020.02 HPSC 第3回課題検討会資料より

図2 JISSにおけるハイパフォーマンススポーツ研究の定義

き、JISSのジャーナルであるJournal of High Performance Sport³⁾に多くのハイパフォーマンススポーツ研究が投稿されることを期待したい。

また、これまでJISSでは総合的に研究論文数が少ないとの外部の声があった。それを真摯に受け止め、各部門の研究数を増加させてきた。JISSでは13のグループに分けて研究を含む活動を実施している。その中で2015年度には55本であった論文発表数が2019年度には105本と顕著に増加している。しかし、論文数は増えているがJISSでしかできない研究になっているかの精査は、引き続き外部協力者の力を借りたうえで継続した検討が必要である。

現在、JISSにおいては各競技団体の支援を実施する過程で把握した課題数と、そこから研究に回った件数および研究成果が支援で活用された件数を数値化する仕組みの構築を進めている。

Ⅲ HPSCの基盤整備としての機能強化ユニットの設置

2015年10月に我が国のスポーツ界待望のスポーツ庁が設置された。1年後の2016年10月、初代長官である鈴木氏は、競技力強化のための支援方針「鈴木プラン」を発表した⁴⁾。その施策の一つとして、国際競技力強化の中核拠点であるHPSCの基盤整備が盛り込まれた。その内容は、データベースの設置と活用、トップアスリートを支える技術開発、諸外国のインテリジェンス情報（国際競技力強化に特化した情報）の収集と

発信であった。ハイパフォーマンススポーツの中核拠点であるHPSCの基盤強化は、自国開催の2020東京オリンピック・パラリンピックでの目標である過去最多の金メダル獲得数達成に向けて、必須の項目と考えられていた。

HPSCでは、これら三つの部門（データベース活用グループ、技術開発グループ、インテリジェンスグループ）を機能強化ユニットとして取りまとめた（図1）。その中でインテリジェンスグループの活動は、強豪国の情報収集とメーリングリストを使った定期的な世界のスポーツ界の動向に関する配信（週2回）、合わせてグレースノート社⁵⁾との契約により、オリンピックスポーツのリザルトデータを基にした競技のランキング等に関する分析を主に実施している。

今回の緊急事態宣言下においても、スポーツ庁を始め多くの関係団体との協議において様々な資料提供を行なった。また、メーリングリストでの配信も継続した。

Ⅳ COVID-19影響下におけるHPSCの活動

1. 情報の収集

COVID-19の影響が世界中で広がる中、WHOのホームページではCOVID-19に関する論文の掲載が始まっていた⁶⁾。中でも掲載を始めて4～9週目で10倍の論文が発表されるという早さであった（図3）。これらのデータに関しては、WHOのホームページをHPSCのインテリジェンスグループが随時確認をして情報を

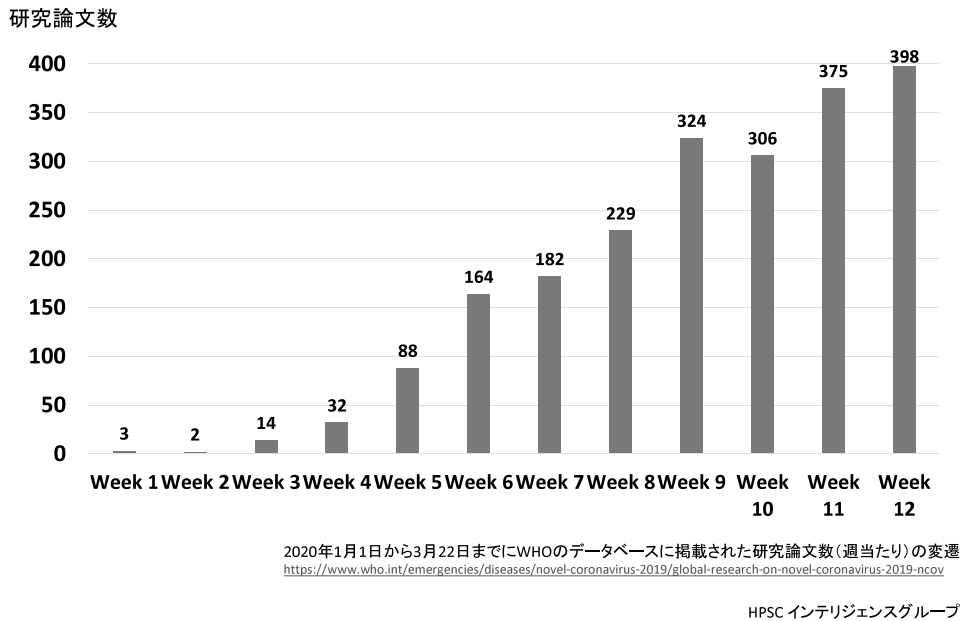


図3 WHOのデータベースに掲載された研究論文数の変遷

まとめた。

また、多くの諸外国の研究雑誌やスポーツの国際機関等がCOVID-19とスポーツの論文を含む関連情報をホームページにて発信していた^{7)~11)}。これらの中で有益と考えられた情報の一部は、JISSスポーツ研究部において加工して配信した。さらにJISSは、Association of Sport Performance Center（各国のナショナルトレーニングセンター等の集まり）¹²⁾のネットワークに加盟している。ここで共有された情報は、JISS内でも共有され閉鎖期間中の事業推進にも活用された。

これらの情報を総合的に判断し、HPSCでは緊急事態宣言に入る以前から独自のガイドラインの必要性を考慮しコンディショニング課において準備を進めていた。

また、HPSCにおいてはスポーツとCOVID-19の対応に関わる情報を国際競技力強化の観点から様々なWebサイトを閲覧し、情報の収集を行ってきた（表1）。

2. 情報の発信（HPSC臨時特設サイト）

情報の発信については緊急事態宣言発令前から準備を行ない、HPSC臨時特設サイトを4月9日に開設した¹³⁾。収集した情報は、それぞれの専門領域において議論を重ね発信のために加工した。その上で、他領域の専門家による意見も加えて発信情報として取りまとめた。最後に各部門の責任者、部長およびJISSセンター長の確認を得て掲載とした。なお閲覧の想定対象者は、オリンピック・パラリンピックのトップアスリート、コーチ、その他関係者であった。しかし、地域を

含めた様々な問い合わせも多く、結果的には、ジュニアアスリートや学校関係者等にも広く活用された。

具体的な内容はメディカル情報、特別な条件下におけるコンディショニングのヒント（栄養・トレーニング・心理）、研究情報、参考情報等であり、トレーニングでは映像コンテンツも多く配信した。

その中でスポーツ栄養の情報については、これまで12本の情報が発信された。普段通りの生活が出来ない中においても、食事は毎回摂取する必要がある。しかし、今回の状況の中で一般の人たちと大きく違うのは、トレーニングや試合を考慮して身体作りやコンディショニング維持を心掛けて摂取していた食事を、通常のトレーニングが出来ない中でどのようにコントロールしていくかが最も重要な点であった。そのためには、これまで意識してこなかった食品や調理の仕方、テイクアウトやデリバリー等の情報も盛り込み、コンディショニングの維持をアスリート自ら保てるように考慮がなされていた。また、HPSCを普段から利用するアスリートは、ビッフェ方式のレストランに慣れているため、自炊をすることが少ない傾向にある。しかし、今回は街中のレストランや食堂も閉鎖となっていたことを考えると自炊が主体となっていたことも情報発信をする上で大切なポイントであった。さらに、抗酸化成分の活用や脱水予防のための水分補給についても、コンディショニングの観点から改めて情報に加えて発信をした。

HPSCによる情報発信の最大の強みは、トレーニング、栄養、心理、リハビリテーション等を含むアスリートのコンディショニング維持に必要なスポーツ科学、

表1 諸外国スポーツ機関が参照情報として掲載しているリソース一覧

	リソース	収集可能な情報の種類	リンク	引用機関 (例)
国内情報	厚生省 (MOPH/ カタール)	国内ニュース、最新情報、国内状況に応じた教育マテリアル	https://www.moph.gov.qa/english/Pages/Coronavirus2019.aspx	アスベター
	保健省 (Department of Health/ オーストラリア)	国内ニュース、最新情報、国内状況に応じた教育マテリアル	https://www.health.gov.au/news/health-alerts/novel-coronavirus-2019-ncov-health-alert?utm_source=health.gov.au&utm_medium=redirect&utm_campaign=digital-transformation&utm_content=health-topics-novel-coronavirus-2019-ncov	スポーツオーストラリア
	保健省 (Ministry of Health/ イタリア)	イタリアの COVID-19 に関する情報	http://www.salute.gov.it/portale/nuovocoronavirus/dettaContentutiNuovoCoronavirus.jsp?lingua=italiano&id=5351&area=nuovoCoronavirus&menu=vuoto	スポーツオーストラリア
	保健省 (カナダ)	国内状況、健康、財政支援、渡航、安全、FAQ 等	https://www.canada.ca/en/public-health/services/diseases/coronavirus-disease-covid-19.html#faq	オウン・ザ・ボディウム
	カナダスポーツ倫理センター (CCES)	CCES における人のスポーツ研究プログラムの継続可否	https://cces.ca/news/cces-testing-program-hold	オウン・ザ・ボディウム
	健康教育局 (BZGA/ ドイツ)	国内最新情報、感染防止行動及び規定等	https://www.infektionsschutz.de/coronavirus/	ドイツオリンピックスポーツ連盟
	政府中央ポータル (ニュージーランド) 保健省、教育省	国内最新情報、財政支援、公衆衛生、基礎情報等	https://covid19.govt.nz/ https://www.health.govt.nz/our-work/diseases-and-conditions/covid-19-novel-coronavirus	スポーツニュージーランド
公衆衛生 / 政府機関	世界保健機関 (WHO)	ニュース、最新情報、国際的教育マテリアル	https://www.who.int	アスベター / オウン・ザ・ボディウム / アメリカオリンピック・パラリンピック委員会
	アメリカ疾病管理予防センター (CDC)	ニュース、最新情報、国際的教育マテリアル	https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/index.html	アスベター / スポーツオーストラリア / アメリカオリンピック・パラリンピック委員会
	英国公衆衛生庁 (PHE)	英国の公衆衛生ガイダンス	https://www.gov.uk/government/collections/coronavirus-covid-19-list-of-guidance	アスベター
渡航関連情報	スマートトラベラー DFAT	国ごとの渡航制限最新情報	https://www.smarttraveller.gov.au/ https://travel.state.gov/content/travel/en/traveladvisories/COVID-19-Country-Specific-Information.html https://travel.state.gov/content/travel/en/traveladvisories/COVID-19-Country-Specific-Information.html	スポーツオーストラリア / アメリカオリンピック・パラリンピック委員会
	トラベルリスク評価 ECDC	飛行機等の移動における感染リスク評価ガイドライン	https://www.ecdc.europa.eu/en/all-topics-ztravellers-health/infectious-diseases-aircraft	スポーツオーストラリア
	WHO トラベルアドバイス	海外渡航に関する提言 / 助言	https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/travel-advice	スポーツオーストラリア
	セーフトラベル	海外渡航情報 (飛行機、クルーズ船等)	https://safetravel.govt.nz/covid-19-coronavirus#overlay-context=covid-19-coronavirus	スポーツニュージーランド
	国際航空運送協会 (IATA)	国際線渡航制限情報等	https://www.iatatravelcentre.com/international-travel-document-news/1580226297.htm	スポーツニュージーランド
スポーツ団体	国際オリンピック委員会 (IOC)	アスリートや NOC に向けた情報、東京 2020 の最新情報	https://www.olympic.org/all-information-about-the-olympic-games-tokyo-2020-and-covid-19	アスベター / アメリカオリンピック・パラリンピック委員会
学術研究機関	オックスフォード大学 CEBM	COVID-19 に関する最新のエビデンス	https://www.cebm.net/oxford-covid-19/	アスベター
	エビデンスエイド (Evidence Aid)	COVID-19 に関する研究に基づくエビデンス	https://www.evidenceaid.org/coronavirus-covid-19-evidence-collection/	アスベター
	ブリティッシュメディカルジャーナル (BMJ)	COVID-19 の最新情報	https://www.bmj.com/coronavirus	アスベター
	ハーバードヘルス (Harvard Health)	COVID-19 リソースセンター (Q&A)	https://www.health.harvard.edu/diseases-and-conditions/coronavirus-resource-center	アスベター
	ニューイングランドジャーナルオブメディシン	COVID-19 に関する論文やリソース	https://www.nejm.org/coronavirus	アスベター
	ランセット (The Lancet)	科学的論文を有する COVID-19 リソースセンター	https://www.thelancet.com/coronavirus	アスベター
	スプリングー・ネイチャー (Springer Nature)	科学的論文を有する COVID-19 リソースセンター	https://www.springernature.com/gp/researchers/campaigns/coronavirus	アスベター
	ワイリー (Wiley)	コロナウィルスに関する無料アクセスのコンテンツ	https://novel-coronavirus.onlinelibrary.wiley.com/	アスベター
	ジョンホプキンス大学ダッシュボード	大学 CSSE による COVID-19 の拡大状況の追跡	https://coronavirus.jhu.edu/map.html	アスベター / スポーツオーストラリア
	アメリカスポーツ医学会	COVID-19 の期間中にアクティブにいたるためのアドバイス	https://www.exerciseismedicine.org/support_page.php/staying-active-during-covid-19/	アスベター
	リットコビッド (LitCovid)	COVID-19 における科学的情報文献のハブ	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/research/coronavirus/	アスベター
	CDC COVID-19 文献専用サイト		https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/publications.html	アスベター
	WHO 状況報告 (Situation Report)	COVID-19 の各国感染データ (文書)	https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/situation-reports	スポーツオーストラリア
	WHO 緊急ダッシュボード	COVID-19 の各国感染データ (ダッシュボード)	https://extranet.who.int/publicemergency	スポーツオーストラリア
	WHO COVID-19 国際研究専用サイト		https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/global-research-on-novel-coronavirus-2019-ncov	アスベター
	ジュネーブ教育研究センター (CERAH)	COVID-19 に関する科学的情報リソース	https://cerahgeneve.ch/resources/covid-19-free-online-scientific-resources	アスベター
	ロベルトコッホ研究所 (RKI)	COVID-19 に関する研究情報	https://www.rki.de/EN/Home/homepage_node.html	ドイツオリンピックスポーツ連盟 / ドイツ応用トレーニング研究所
その他	STAT	その他	https://www.statnews.com/tag/coronavirus/	アスベター
	グーグル	COVID-19 に関する情報及びリソース	https://www.google.com/covid19/	アスベター
	全国公開ビデオ (National Public Video)	COVID-19 に関するライブニュース及び情報		アスベター

スポーツ医学の専門家がフルタイムで揃っていることである。さらに、各国のナショナルトレーニングセンター、国際連盟、統括組織等の情報を収集する部門があるため包括的な議論ができ、その上で情報発信ができることがHPSCの最大の強みである。

また、HPSCでは「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策としてのスポーツ活動再開ガイドライン」の作成も実施した¹⁴⁾。これを基にして日本スポーツ振興センターは、日本オリンピック委員会（JOC）、日本パラリンピック委員会（JPC）と共同名でガイドラインを作成し各競技団体に配布した。これを参考に各競技団体は、専用のガイドラインの作成を行なった。

今回のCOVID-19による緊急事態宣言を安全に解除していくためには、ガイドラインの作成は必須の項目となっている。それはスポーツ界も同様である。オリンピック・パラリンピックという分野において、その礎をHPSCが担えたことは大きな意義がある。今後は、内容の検討を加えて改善を図り、第2波、3波に備えることが求められるであろう。

今回は臨時特設サイトを多くのアスリートや関係者に観てもらうための工夫として、SNS（フェイスブック、ツイッター）、登録制のメーリングリスト（スポーツインテリジェンスML）、日本スポーツ振興センター（JSC）が行っている地域との連携ネットワーク（730の地域行政と締結）であるジャパン・スポーツ・ネットワーク（JSN）への更新情報を配信した。中でもツイッターでは、4月8日～5月22日（45日間）に896,355件のインプレッション（見た回数）を記録した。

V まとめ

今回のCOVID-19による世界中での影響は、現代社会の仕組みを根底から覆し非日常下での生活を余儀なくされることとなった。それはスポーツの世界においても同様であった。その中で本稿においては、国の機関であるHPSCにおける動向の一端を紹介した。

第2波、3波の恐れがある中で、再開したHPSCでは作成したガイドラインに則り安全で安心してアスリートがトレーニング出来る環境の提供を引き続き行っていきたい。

利益相反

本研究内容に関して利益相反は存在しない。

文 献

- 1) Johns Hopkins University : COVID-19 Dashboard, <https://gisanddata.maps.arcgis.com/apps/opsdashboard/index.html#/bda7594740fd40299423467b48e9ecf6>, (2020年5月30日)
- 2) 久木留毅：ハイパフォーマンススポーツにおける国立スポーツ科学センターの新たな取り組み アジア No. 1 のハイパフォーマンススポーツ研究所を目指して, 体育の科学, 69, 615-621 (2019)
- 3) JISS : ホームページ, <https://www.jpnsport.go.jp/jiss/fc/tabid/1261/Default.aspx>, (2020年5月30日)
- 4) スポーツ庁：競技力強化のための支援方針（鈴木プラン）, https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop07/list/detail/1377938.htm, (2020年5月30日)
- 5) Gracenote : Global Sports Data, <https://www.gracenote.com/sports/global-sports-data/>, (2020年5月30日)
- 6) WHO : Global research on coronavirus disease (COVID-19), <https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/global-research-on-novel-coronavirus-2019-ncov>, (2020年5月30日)
- 7) AIS : COVID-19 and Sporting Activity, https://ais.gov.au/health-wellbeing/covid-19#ais_framework_for_rebooting_sport, (2020年5月30日)
- 8) British Journal of Sports Medicine : COVID-19, <https://authors.bmj.com/policies/covid-19/>, (2020年5月30日)
- 9) JAMA Network : COVID-19 Q&As, <https://jamanetwork.com/journals/jama/pages/covid-19-interviews>, (2020年5月30日)
- 10) Journal of Science and Medicine in Sport : Search Results (COVID-19), <https://www.jsams.org/action/doSearch?occurrences=all&searchText=COVID-19&searchType=quick&searchScope=fullSite&journalCode=jsams>, (2020年5月30日)
- 11) WORLD RUGBY : COVID19-Return To Play Guidelines, <https://playerwelfare.worldrugby.org/covid-19>, (2020年5月30日)
- 12) ASPC : The World Association of Sport Performance Centres, <https://sportperformancecentres.org>, (2020年5月30日)
- 13) HPSC : 臨時特設サイト, <https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/news/httpswwwjpnsportgojphpscfnathlete/tabid/696/Default.aspx>, (2020年5月30日)
- 14) HPSC : 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策としてのスポーツ活動再開ガイドライン（HPSC版）, <https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/Portals/0/katudousaikaiguide.pdf>, (2020年5月30日)

Special Contribution

High performance sport center services during the early days of COVID-19 focusing on urgent efforts at the Japan Institute of Sports Sciences

Takeshi KUKIDOME ^{*1, *2}

^{*1} Japan Institute of Sports Sciences

^{*2} Senshu University

ABSTRACT

Because of the novel coronavirus (COVID-19) pandemic, the Japanese government officially announced a State of Emergency while the world was in the midst of confusion and uncertainty. Therefore, the Japan Sport Council (JSC) decided to close its High Performance Sport Center (HPSC), the centralized training base for elite Olympic and Paralympic athletes. The Japan Institute of Sports Sciences (JISS), a department of the HPSC, is responsible for providing support services to athletes in the field of sport science, medicine, and information. This article introduces the support activities implemented during the State of Emergency, focusing on information delivery from the newly established Conditioning Division of the JISS and the Intelligence Group within the Operational Excellence Unit of the HPSC. In terms of information delivery, the strength of the HPSC relies on the availability of full-time experts in sport science and medicine. In addition, there is a team focusing on information gathering from different countries, enabling experts to engage in holistic discussions in a wider scope. Moreover, the HPSC has developed guidelines for returning to sport activities and training in the context of COVID-19.

Keywords: COVID-19, High Performance Sport Center (HPSC), Division of Conditioning, Intelligence Group of Operational Excellence Unit